

(様式1)

平成26年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 007	提案機関名 畜産課
要望問題名 ケージ飼い採卵養鶏から移行できる小型の肉用鶏の飼養方法による特色作り	
要望問題の内容 【背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等)】 近年の家庭料理の多様化の観点から見ると、サムゲタンやローストチキンなど、一羽丸ごと調理する丸鶏需要も増えてきている。しかし、スーパーに並ぶ丸鶏は輸入物が多く、大きくて手が出にくい。 そのような中で、採卵養鶏農家が大きな施設投資なしに肉用鶏経営に参画できるよう、小型でケージ飼育可能な銘柄鶏が検討されていると聞いている。 神奈川で統一肉用鶏ブランドができる一隅のチャンスであり、飼料や飼養方法を統一して特色ある鶏肉が生産できれば、これに取り組む農家も増え、供給力のある統一ブランドになる可能性がある。 については、本県で自給出来る飼料＝エコフィードの観点も加味し、食品残さ(揚げ粕や、鰹節粕、荒茶粕など)で肉にコク・風味を生み出す研究や、発育促進のためくず粃米を初期生育期に利用して筋肉発達をさせるなど、これまでの様々な研究成果を組み合わせ、特色ある肉用鶏を作るための飼養方法を検討していただきたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術所 ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	参考：静岡県「フジ小軍鶏」

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター畜産技術所	担当部所	企画研究課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 地域銘柄鶏の作出を目指した鶏卵・鶏肉の高付加価値化技術の開発(平成24～26年度) 食品残さの鶏への飼料化技術の確立(平成19～26年度)		
対応の内容等	当所では、地域銘柄鶏の作出を目指して国産鶏の組合せについて試験を実施しているところです。 食品残さ、くず粃米等については、入手の可能性などを検討し、上記試験の中で銘柄鶏への給与試験を実施していきたいと思っております。		
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			